（別紙様式４）

令和8年10月30日

# 職業実践専門課程等の基本情報について

| 学校名 | 設置認可年月日 | 校長名 | 所在地 |
|---|---|---|---|
| 金沢ウエディング・ビューティー専門学校 | 平成22年12月9日 | 金子　秀安 | 〒　9200031<br>（住所）　石川県金沢市広岡1-1-15<br>（電話）　076-221-5757 |
| **設置者名** | **設立認可年月日** | **代表者名** | **所在地** |
| 学校法人大原学園 | 昭和54年4月1日 | 中本　毎彦 | 〒　1010065<br>（住所）　東京都千代田区西神田1-1-3<br>（電話）　03-3291-0151 |

| 分野 | 認定課程名 | 認定学科又は専攻科名 | 専門士認定年度 | 高度専門士認定年度 | 職業実践専門課程認定年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 文化・教養 | 文化・教養専門課程 | トータルビューティー学科 | 平成13(2001)年度 | － | 平成27(2015)年度 |

| | |
|---|---|
| 学科又は専攻科の目的 | 本校は教育基本法および学校教育法に基づき、マナー指導はもちろん、ビューティーに関する教育を施し、人格の陶冶を行いもって有為な産業人を育成することを目的とする。 |
| 学科又は専攻科の特徴（取得可能な資格、中退率　等） | 認定エステティシャン・ネイリスト技能検定・ジェルネイル技能検定・メイクアップ技術検定などのビューティー系の試験をはじめ、アロマテラピーやパーソナルカラリスト、秘書検定などの幅広い資格試験が受験可能。プロの指導により、実践的なスキルを身につけるとともに、資格取得を目指す。卒業後は「エステサロン、ネイルサロン、化粧品メーカー」などのビューティー業界の分野で幅広い知識を持った人材として活躍できるよう技術習得を目指す。 |

| 修業年限 | 昼夜の別 | 全課程の修了に必要な総単位数 | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2　年 | 昼間 | 62　単位 | 15 単位 | 55 単位 | 3 単位 | 0 単位 | 0 単位 |

| 学生総定員 | 学生実員(A) | 留学生数（学生実員の内数）(B) | 留学生割合(B/A) | 中退率 |
|---|---|---|---|---|
| 40 人 | 36 人 | 0 人 | 0 % | 12 % |

**就職等の状況**

| | | | |
|---|---|---|---|
| ■卒業者数（C） | : | 8 | 人 |
| ■就職希望者数（D） | : | 6 | 人 |
| ■就職者数（E） | : | 6 | 人 |
| ■地元就職者数（F） | | 2 | 人 |
| ■就職率（E/D） | : | 100 | % |
| ■就職者に占める地元就職者の割合（F/E） | | 33 | % |
| ■卒業者に占める就職者の割合（E/C） | | 75 | % |
| ■進学者数 | | 0 | 人 |
| ■その他 | | | |

（令和　　7 年度卒業者に関する令和8年５月１日時点の情報）

■主な就職先、業界等

（令和7年度卒業生）

日本ロレアル㈱、コーセー化粧品販売㈱、㈱アルビオン、P&Gプレステージ（同）

| | |
|---|---|
| 当該学科のホームページURL | https://www.o-hara.ac.jp/senmon/course/beauty/ |

**企業等と連携した実習等の実施状況**

| | |
|---|---|
| 総単位数 | 62 単位 |
| うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数 | 0 単位 |
| うち企業等と連携した演習の単位数 | 18 単位 |
| うち必修単位数 | 0 単位 |
| うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数 | 0 単位 |
| うち企業等と連携した必修の演習の単位数 | 0 単位 |
| （うち企業等と連携したインターンシップの単位数） | 0 単位 |

**教員の属性（専任教員について記入）**

| | | |
|---|---|---|
| ① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 | （専修学校設置基準第41条第1項第1号） | 0 人 |
| ② 学士の学位を有する者等 | （専修学校設置基準第41条第1項第2号） | 1 人 |
| ③ 高等学校教諭等経験者 | （専修学校設置基準第41条第1項第3号） | 0 人 |
| ④ 修士の学位又は専門職学位 | （専修学校設置基準第41条第1項第4号） | 1 人 |
| ⑤ その他 | （専修学校設置基準第41条第1項第5号） | 1 人 |
| 計 | | 2 人 |

| | |
|---|---|
| 上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね５年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数 | 0 人 |

## 1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

〇教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携

（1）教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針及び教育課程編成委員会等の位置付け

| | |
|---|---|
| a.教育課程編成委員会を年2回以上開催しているか。 | している |
| 開催日時実績 | 第1回　令和7年8月8日　14:00～15:30/第2回　令和7年12月5日 |
| b.教育課程編成委員会に、以下①～③の類型に該当する企業等委員が参加しているか。<br>※①から③において、①又は②から1人、③から1人が委員として参画している場合、「している」を選択。<br>※①又は②から1人、③から1人が委員として参画していない場合、「していない」を選択。 | している |
| ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、<br>地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。） | |
| ②学会や学術機関等の有識者 | |
| ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員 | |
| c.学校の教育課程編成の責任者が委員参加しているか。 | している |
| d.教育課程や学生の学修成果等に関する現状や情報、データを教育課程編成委員会の委員に提示しているか。 | している |
| e.教育課程編成委員会の議事を記録し、学内回覧等しているか。 | している |
| f.企業等委員の意見を教育課程編成見直しに反映しているか。 | している |
| g.次の教育課程編成委員会に、教育課程編成の見直し結果等を報告しているか。 | している |

（特筆すべき工夫等）

（2）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和8年4月1日現在

| 名　前 | 所　　属 | 任期 | 種別 |
|---|---|---|---|
| 金子　秀安 | 金沢ウエディング・ビューティー専門学校　校長 | ― | ― |
| 松本　府美江 | 金沢ウエディング・ビューティー専門学校　副校長 | ― | ― |
| 廣坂　由美 | 金沢ウエディング・ビューティー専門学校 | ― | ― |
| 榮川　友乃 | 金沢ウエディング・ビューティー専門学校 | ― | ― |
| 中川　亜理沙 | 金沢ウエディング・ビューティー専門学校 | ― | ― |
| 吉田　茜音 | 金沢ウエディング・ビューティー専門学校 | ― | ― |
| 中嶋　明彦 | 公益財団法人日本ネイリスト検定試験センター | 令和8年4月1日～<br>令和10年3月31日（2年） | ① |
| 大門　亨雅 | 株式会社 ザ・フォウルビ | 令和8年4月1日～<br>令和10年3月31日（2年） | ③ |

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。）
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

## 2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針及び実習・演習等における企業等との連携内容

| | |
|---|---|
| a.実習等又は演習の形態の授業で企業等連携を行っているか。 | している |
| b.企業等と連携を行う際は、企業等との組織的な協定や契約を締結しているか。 | している |
| c.企業等との連携内容を、連携先企業等との文書等で明示的に合意しているか（連携のマニュアル、手引き等定めているか）。 | している |
| d.教育課程や学生の学修成果等に関する現状や情報、データを教育課程編成委員会の委員に提示しているか。 | している |
| e.企業等の講師に対して事前打ち合わせや研修を行っているか。 | している |
| f.企業等連携の実習・演習等の内容を学校側は適切に確認しているか（教員の見回り実施、実習日誌の作成等）。 | している |
| g.企業等連携の実習・演習等における成績評価について、企業等と協議を行っているか。 | している |
| h.適切な企業等連携の実習・演習となるよう、必要に応じて連携先企業等を見直しているか。 | している |

（特筆すべき工夫等）

（2）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

| 科　目　名 | 企業連携の方法 | 科目概要 | 連　携　企　業　等 |
|---|---|---|---|
| ベーシック<br>メイクアップⅠ<br>ベーシック<br>メイクアップⅡ | 1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当 | スキンケア、ベースメイク、ポイントメイクと段階を踏んで学習する。相モデルで技術者とお客様の立場で実習することで実践的なメイク技術の基礎を学ぶ。<br>イメージあわせた作品制作を行うなど、実践的にトレーニングを行う。 | GIGI　塚田　末子 |
| ベーシックネイルⅠ<br>ベーシックネイルⅡ | 1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当 | ネイルケア、カラーリング、アート、リペアなどの技術を身に付けることを目的とする。実践的にトレーニングを行うことにより、ネイリスト資格取得に向けた技術の向上を図る。 | 武内　陽子 |
| アドバンス<br>メイクアップⅠ<br>アドバンス<br>メイクアップⅡ | 1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当 | 実践的なメイク技術を学び、作品制作を行う。テーマに合わせたメイクや和装メイク、ブライダルメイク、撮影やショーメイクなどを習得することで技術の向上を図り、実務での対応範囲を広げることを目的とする。 | GIGI　塚田　末子 |
| アドバンスネイルⅠ<br>アドバンスネイルⅡ | 1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当 | ジェルネイルの技術を身に付けることを目的とする。カウンセリングを含めサロンワークを実践的に学ぶ。 | 武内　陽子 |
| ヘアスタイリング | 1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当 | 撮影・ショーやブライダルなど、洋装・和装のヘアスタイリングができる技術を身に付けることを目的とする。実践的にトレーニングを行う。 | GIGI　塚田　末子 |

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）認定専門課程等の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針
※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

専門的かつ実践的な知識・技能を有し即戦力となる人材を育成するためには、教員一人ひとりが常に実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身につけなければならない。
「大原学園　教職員研修規程」の目的に定めるとおり、教職員が専攻分野に関する知識・技能・企画力・判断力等を高めるための環境を整備し、所属長の指示または本人の意志により、公平に研修等を受講する機会を与えるものとする。校内、校外において学園が企画する研修は下記のとおり。
①教育課程編成委員会に参画する企業等から講師を派遣した実践的な知識・指導スキル研修
②大学教授等専門分野に特化した講師として招いた研修会の実施
③学内に設置される附帯教育講座を利用しての自己啓発

（2）研修等の実績
①専攻分野における実務に関する研修等

| | | | |
|---|---|---|---|
| 研修名： | 「日本メイクアップ技能検定試験の手技確認」 | 連携企業等： | 一般社団法人JMA |
| 期間： | 令和7年8月4日（月） | 対象： | 教員 |
| 内容 | 検定試験の試験官を行うにあたり、採点方法を他の試験官と統一する。フォローアップ研修 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 研修名： | MEO対策セミナー | 連携企業等： | 株式会社TAT |
| 期間： | 令和7年12月16日（火） | 対象： | 教員 |
| 内容 | マップエンジン最適化セミナー （Googleマップを活用した、自社の店舗を見つけてもらいやすくするための施策について） | | |

②指導力の修得・向上のための研修等

| | | | |
|---|---|---|---|
| 研修名： | 犯罪からあなたを守るために～特殊詐欺などの被害に遭わないために～ | 連携企業等： | 石川県戦略広報課 |
| 期間： | 令和7年8月8日（金） | 対象： | 教員 |
| 内容 | 特殊詐欺などの犯罪に遭わないためのポイントを分かりやすく紹介 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 研修名： | 講義力向上研修 | 連携企業等： | 大原学園 |
| 期間： | 令和7年12月18日(木) | 対象： | 教員 |
| 内容 | 成果や課題を「可視化」し、現状の把握・分析を行う。／学生を引きつける講義のポイントについて知識を深める。 | | |

（3）研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

| | | | |
|---|---|---|---|
| 研修名： | 「認定講師向け勉強会」 | 連携企業等： | 一般社団法人JMA |
| 期間： | 令和8年8月19日（水） | 対象： | 教員 |
| 内容 | 認定講師および認定校ご担当者様を対象とした「講師向け勉強会」 | | |

②指導力の修得・向上のための研修等

| | | | |
|---|---|---|---|
| 研修名： | 知ってほしい、ヤングケアラー | 連携企業等： | 石川県少子化対策監室 |
| 期間： | 令和8年8月6日(木) | 対象： | 教員 |
| 内容 | ヤングケアラーについて理解を深めるとともに、ヤングケアラーの可能性がある学生への対応について、理解する。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 研修名： | 講義力向上研修 | 連携企業等： | 大原学園 |
| 期間： | 令和8年8月3日(月) | 対象： | 教員 |
| 内容 | 成果や課題を「可視化」し、現状の把握・分析を行う。／学生を引きつける講義のポイントについて知識を深める。 | | |

4.「当該専門課程等を置く専修学校において、学校教育法第百三十二条の二第二項の規定により評価を受け、その結果を公表していること。」関係

○学校関係者評価
(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの評価項目 | |
|---|---|
| (1)教育理念・目的・目標 | |
| 1　教育理念、目的及び目標の設定等 | |
| ①教育理念等を踏まえ、当該専門学校としての目的及び目標を明確に設定し、養成する人材像を明確にしていること。 | 同内容評価項目を設けている |
| (2)学校運営 | |
| 1　教育課程の編成と授業科目 | |
| ①学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な教育課程編成・実施方針を作成したうえで、教育課程を体系的に編成し、系統性・段階性に配慮した授業科目を配置していること。 | 同内容評価項目を設けている |
| 2　教育の実施 | |
| ①授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技など、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、成績評価基準に基づき成績評価を行っていること。 | 同内容評価項目を設けている |
| ②企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。教育目標の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位数の総授業単位数に占める割合を具体的に設定していること。 | 同内容評価項目を設けている |
| 3　単位・卒業認定 | |
| ①学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針(資格・免許等を含む習得させる職業能力を含む)を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業の認定をしていること。 | 同内容評価項目を設けている |
| 4　学修成果目標の達成状況 | |
| ①卒業認定方針を踏まえ、学科・コースごとに職業能力を含む資質能力の修得(資格・免許等の取得や知識・技術・技能の修得を含む。)についての目標を定め、その目標が達成できていること。 | 同内容評価項目を設けている |
| ②学生が望む進路の実現に関する目標を定め、その目標が達成できていること。 | 同内容評価項目を設けている |
| (3)学生の受入れ、学生支援 | |
| 1　学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理 | |
| ①入学者の受け入れ方針、入学選考基準、方法を定め、入学希望者に明示し、入学者の選考を公正に行い、合否を決定していること。 | 同内容評価項目を設けている |
| 2　自主的な学習の促進に対する支援 | |
| ①学生の学力や学習状況を把握し、入学前教育や補習授業を行うなど学習支援に取組んでいること。学生の円滑な学習に向け、シラバスの活用による学習成果の向上や自主的な学習に関する適切な支援を行っていること。※任意項目 | 同内容評価項目を設けている |
| 3　多様な学生に対する支援 | |
| ①適切な体制を構築し、障がいのある学生、海外からの留学生、社会人経験者など、多様な学生に対する支援を行っていること。　※任意項目 | 同内容評価項目を設けている |
| 4　学生生活に関する支援 | |
| ①カウンセラーの配置、相談室の設置など、学生の相談に対応するための環境整備を行い、適切に運営していること。 | 同内容評価項目を設けていない |
| ②留年者、退学希望者など学習の継続に困難な問題を抱える学生に対し適切な対応を行っていること。 | 同内容評価項目を設けている |
| ③学校保健安全法に基づく学校保健計画を策定し、学生の心身の健康管理体制を整備し、適切に運用していること。　※簡易評価項目 | 同内容評価項目を設けている |
| ④学生の経済的側面に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。　※任意項目 | 同内容評価項目を設けている |
| ⑤学生のキャリア支援、就職支援に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。 | 同内容評価項目を設けている |

| | |
|---|---|
| （4）教育実施組織・教員 | |
| 1　教員の配置、募集、採用 | |
| ①教育課程を実施するのに必要な、資格・要件を備えた教員を確保するために基準等（教員の採用基準等）を整備し、適正に運用していること。 | 同内容評価項目を設けている |
| ②教員の常勤・非常勤、年齢構成等、また教員一人当たりの授業時数等を把握していること。また、教員の専門性、教授力を把握、評価していること。 ※任意項目 | 同内容評価項目を設けている |
| 2　教員の組織編制等 | |
| ①学校の目的に応じた分野の区分ごとに必要な教員組織を整備し、業務分担、責任体制を規程等で定めていること。 | 同内容評価項目を設けている |
| ②教員間で連携、協力体制を構築していること。 ※任意項目 | 同内容評価項目を設けている |
| 3　教員の資質の向上 | |
| ①学校の教育活動の改善、工夫を行うFD(Faculty Development)などの取組や、教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。 | 同内容評価項目を設けている |
| ②特に職業実践専門課程においては、企業等と連携して組織的に行っていること。 | 同内容評価項目を設けている |
| ③教員の授業及び指導力等を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的に行っていること。 | 同内容評価項目を設けている |
| （5）教育環境 | |
| 1　教育環境の整備 | |
| ①教育上の必要性に対応できる施設・設備、機械器具等を備えていること。 | 同内容評価項目を設けている |
| ②学生の学習支援のための施設(自習室等)を整備していること。また、学生の休憩、食事のためのスペースを確保していること。 ※任意項目 | 同内容評価項目を設けている |
| ③図書室を設置し、専攻分野の教育に必要な専門書及び参考図書を配架し、必要に応じて学生が閲覧できるようにしていること。 ※任意項目 | 同内容評価項目を設けている |
| 2　安全対策、防災組織 | |
| ①学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、学校における安全対策を適切に行っていること。 | 同内容評価項目を設けている |
| ②火災の発生や防災に関する組織体制を整備し、適切に運営していること。 ※任意項目 | 同内容評価項目を設けている |
| 3　施設・設備等の点検、改善等 | |
| ①施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等を適切に行っていること。※任意項目 | 同内容評価項目を設けている |
| ②施設の改築・改修、設備の更新等の計画を定め、適切に実施していること。 ※任意項目 | 同内容評価項目を設けている |
| （6）教育活動の基盤と改善・向上の取組 | |
| 1　中期事業計画と財務基盤 | |
| ①当該専修学校が策定している中長期的計画に、教育目的、教育目標の実現に向けた具体的な内容が位置付けられていること。 ※任意項目 | 同内容評価項目を設けている |
| ②当該専修学校の教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立していること。 | 同内容評価項目を設けている |
| 2　学校運営 | |
| ①学校運営の組織体制を整備し、適切な運営が行われていること（職業教育に関するマネジメント（教育の企画・設計・運営等）における責任体制を含む。）。 | 同内容評価項目を設けている |
| 3　学校評価の実施と改善活動 | |
| ①学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会等外部からの意見を反映するなど、関連企業等団体、地域社会等からの意見を当該専修学校の運営やその改善・向上において活用していること。 ※任意項目 | 同内容評価項目を設けている |
| ②特に職業実践専門課程においては、教育課程編成委員会を年2回以上開催していること。 | 同内容評価項目を設けている |
| ③学校評価を実施し結果及び改善状況についての情報を公表していること。 | 同内容評価項目を設けている |
| ④学校評価の結果に基づく改善への取組を組織的かつ継続的に行っていること。 | 同内容評価項目を設けている |
| 4　社会からの理解と情報の公表 | |
| ①当該専修学校の教育活動、学修成果、学校運営等の状況に関する情報を積極的に公表していること。 | 同内容評価項目を設けている |
| ②教育目的・目標の達成状況や活動状況について関連する教育機関、産業界等をはじめ、社会全体からの理解を得るよう取組んでいること。 ※任意項目 | 同内容評価項目を設けている |

（3）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和8年4月1日現在

| 名　前 | 所　　属 | 任期 | 種別 |
|---|---|---|---|
| 小山　康晴 | 株式会社小林太郎鉄工所 | 令和8年4月1日～<br>令和10年3月31日（2年） | 卒業生 |
| 三納　昭博 | 野々市市議 | 令和7年4月1日～<br>令和9年3月31日(2年) | 卒業生 |

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

| 情報提供方法 | ホームページ | 「その他」の場合 | ー |
|---|---|---|---|
| 公表URL | https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/ | | |
| 公表時期 | 令和8年11月30日 | | |

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）情報提供

| 情報提供方法 | ホームページ | 「その他」の場合 | ー |
|---|---|---|---|
| 公表URL | https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/ | | |
| 公表時期 | 令和8年11月30日 | | |

# 授業科目等の概要

| | （文化・教養専門課程　トータルビューティー学科） | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 単位数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| | 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | |
| 1 | ○ | | | サービス接遇Ⅰ | 基本的なビジネスマナーや接客応対で必要とされる基本業務を身に付けることを目的とする。接客の基本を理解し、サービス接遇検定２級レベルの知識の定着を図る。 | 1後 | 2 | ○ | △ | | ○ | | ○ | | |
| 2 | ○ | | | 一般教養Ⅰ | 一般教養として、社会で求められる漢字の知識を身につけ、日本ビジネス技能検定協会漢字検定3級に合格できる知識を習得する | 1前 | 1 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 3 | ○ | | | 一般教養Ⅱ | 一般教養として、社会で求められる漢字の知識を身につけ、日本ビジネス技能検定協会漢字検定2級に合格できる知識を習得する | 1後 | 1 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 4 | ○ | | | キャリアデザインⅠ | 面接試験で求められるビジネスマナーの基礎を学ぶ。さらに、自己分析や業界・企業・職種研究を基に、自己ＰＲ、志望動機など履歴書やエントリーシートの作成する。 | 1後 | 1 | | ○ | | ○ | ○ | ○ | | |
| 5 | ○ | | | サービス接遇Ⅱ | 基本的なビジネスマナーや接客応対で必要とされる基本業務を身に付けることを目的とする。ケース別ロールプレイングを取り入れ、トレーニングを行う。サービス接遇検定準1級に合格できるスキルを身につける | 2前 | 1 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 6 | ○ | | | 一般教養Ⅲ | ビジネスで必要な能力を身に付けることを目的とし、日常的に利用する漢字能力なども身に付ける。ビジネスで一般に使用される熟語は勿論のこと、四字熟語や慣用句なども学ぶ。 | 2前 | 1 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 7 | ○ | | | キャリアデザインⅡ | 自己分析や業界・企業・職種研究を基に、自己ＰＲ、志望動機など履歴書やエントリーシートの作成に始まり、一般常識，ＳＰＩなどの筆記対策や面接試験対策を行う。 | 2前 | 1 | | ○ | | ○ | ○ | ○ | | |
| 8 | | | ○ | ＷＯＲＤ基礎 | あらゆる企業で使用されている文書作成ソフトの基本を身につける。ＷＯＲＤに関する基礎知識を身につけ、ビジネス文書が作成できるようになる。 | 1前 | 1 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 9 | | | ○ | ＷＯＲＤ応用 | ＰＣの基本操作ならびにＷＯＲＤの応用的な操作を習得する。。ビジネス文書などの作成により実務に役立つパソコン能力を身に付ける。 | 1後 | 1 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 10 | | | ○ | 秘書実務 | 秘書検定合格に向け、秘書としての資質、職務・一般知識、マナー接遇の知識を習得する。 | 1後 | 1 | ○ | △ | | ○ | | ○ | | |
| 11 | | | ○ | ＳＮＳマーケティング | デジタル広告作成のためのSNSの知識やデジタルマーケティングの知識・クリエイティブ制作の知識を身につける | 1後 | 1 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| 12 | | | ○ | ＥＸＣＥＬ基礎 | あらゆる企業で使用されている表計算ソフトの基本を身につける。ビジネス資料などの作成により実務に役立つパソコン能力を身に付ける。 | 2後 | 1 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 13 | | | ○ | 集客プロモーション | ＳＮＳマーケティングで身につけたＳＮＳやデジタルマーケティングの知識を生かし、目的にあったデジタル広告を作成する。 | 2後 | 1 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 14 | | | ○ | パソコン実習Ⅰ | Word、Excelを操作するための基礎的な知識を身につける。 | 2後 | 1 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 15 | | | ○ | 秘書検定総合 | 秘書としての考え方、職務知識、マナー・接遇について体系的に学ぶ。秘書検定2級レベルの知識を習得し、検定合格を目指す。 | 2前 | 1 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 16 | | | ○ | ベーシックメイクアップⅠ | スキンケア、ベースメイク、ポイントメイクと段階を踏んで学習する。相モデルで技術者とお客様の立場で実習することで実践的なメイク技術の基礎を学ぶ。 | 1前 | 2 | △ | ○ | △ | ○ | | | ○ | ○ |
| 17 | | | ○ | ベーシックメイクアップⅡ | スキンケア、ベースメイク、ポイントメイクと段階を踏んで学習する。相モデルで技術者とお客様の立場で実習することで実践的なメイク技術の基礎を学ぶ。イメージあわせた作品制作を行う。 | 1後 | 2 | | ○ | △ | ○ | | | ○ | ○ |
| 18 | | | ○ | ベーシックエステティックⅠ | フェイシャル、ボディの知識と基本的な手技を身に付けることを目的とする。実践的にトレーニングを行う。 | 1前 | 3 | △ | ○ | △ | ○ | | | ○ | |
| 19 | | | ○ | ベーシックエステティックⅡ | ボディ、脱毛の知識と基本的な手技を身に付けることを目的とする。実践的にトレーニングを行う。 | 1後 | 2 | | ○ | △ | ○ | | | ○ | |
| 20 | | | ○ | ベーシックネイルⅠ | ネイルケア、カラーリング、アート、リペアなどの技術を身に付けることを目的とする。実践的にトレーニングを行うことにより、ネイリスト3級・2級の技術の習得を図る。 | 1前 | 3 | △ | ○ | △ | ○ | | | ○ | ○ |
| 21 | | | ○ | ベーシックネイルⅡ | ネイルケア、カラーリング、アート、リペアなどの技術を身に付けることを目的とする。実践的にトレーニングを行うことにより、ネイリスト2級・1級の技術の習得を図る。 | 1後 | 2 | | ○ | △ | ○ | | | ○ | ○ |
| 22 | | | ○ | メイクアップ演習Ⅰ | スキンケア・ベースメイクの技術の習得を目的とする。相モデルでの実習を行い日本メイクアップ技術検定試験3級の技術の習得を図る。 | 1前 | 2 | △ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | |
| 23 | | | ○ | メイクアップ演習Ⅱ | スキンケア・ベースメイク・ポイントメイクの技術の習得を目的とする。相モデルでの実習を行い日本メイクアップ技術検定試験2級の技術の習得を図る。 | 1後 | 2 | | ○ | △ | ○ | | ○ | ○ | |
| 24 | | | ○ | エステティック概論 | エステティックに関する基礎的な知識を習得することを目的とする。エステティックの本質と現状を理解し、知識を深め、エステティックの資格取得に必要な知識も合わせて学ぶ。 | 1前 | 1 | ○ | | | ○ | | ○ | ○ | |
| 25 | | | ○ | 皮膚科学 | 人間の身体の知識や皮膚の構造、働きとしくみを理解し、美しく健康に保つためのスキンケア方法を身につける。<br>エステティックの資格取得に必要な知識も合わせて学ぶ。 | 1後 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | ○ | |
| 26 | | | ○ | 栄養学 | 栄養素と健康の関係を理解し、アドバイスができる知識を身につけることを目的とする。エステティックの資格取得に必要な知識も合わせて学ぶ。 | 1後 | 1 | ○ | | | ○ | | ○ | ○ | |
| 27 | | | ○ | フェイシャルエステティシャン検定対策 | 認定フェイシャルエステティシャン試験合格レベルの知識の定着を図る | 1後 | 1 | △ | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 28 | | | ○ | アロマテラピー基礎 | アロマテラピーの関して基礎的な知識を身につける。リラクセーションやスキンケアで活用されるアロマの安全な楽しみ方、活用法、歴史、文化など広く学ぶ。講義と演習により、知識の定着を図る。 | 1後 | 1 | ○ | △ | | ○ | | ○ | | |
| 29 | | | ○ | 色彩概論 | 色彩に関しての基本ルールを学び理解を深める。色彩検定３級レベルの知識を身につける。 | 1前 | 1 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| 30 | | | ○ | 色彩応用 | 色彩基礎の知識を活用し、色彩検定３級レベルの知識の定着を図り、合格を目指す。 | 1前 | 2 | △ | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 31 | | | ○ | パーソナルカラー基礎Ⅰ | パーソナルカラーの基本のＣＵＳとアンダートーン配色を学び、理解を深める | 1後 | 1 | ○ | △ | | ○ | | ○ | | |
| 32 | | | ○ | パーソナルカラー基礎Ⅱ | パーソナルカラーの基本のＣＵＳとアンダートーン配色を学び、理解を深める | 1後 | 1 | ○ | △ | | ○ | | ○ | | |
| 33 | | | ○ | アドバンスメイクアップⅠ | 実践的なメイク技術を学び、作品制作を行う。テーマに合わせたメイクや和装メイク、ブライダルメイク、撮影やショーメイクなどを習得することで技術の向上を図る。 | 2前 | 2 | | ○ | △ | ○ | | | ○ | ○ |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 34 | | | ○ | アドバンスメイクアップⅡ | 実践的に作品制作を行うことで、実務での対応範囲を広げることを目的とする。テーマに合わせたメイクや和装メイク、ブライダルメイク、撮影やショーメイクなどを習得することで技術の向上を図る。 | 2後 | 2 | | ○ | △ | ○ | | | ○ | ○ |
| 35 | | | ○ | アドバンスエステティックⅠ | フェイシャル、ボディの知識、技術の習得を図る。実技を相モデル形式にて行うことで、認定エステティシャン技術力試験（フェイシャル）に合格できる実技を習得する。 | 2前 | 3 | | ○ | △ | ○ | | | ○ | |
| 36 | | | ○ | アドバンスエステティックⅡ | フェイシャル、ボディの知識、技術の習得を図る。実技を相モデル形式にて行うことで、認定エステティシャン技術力試験（ボディ）に合格できる実技を習得する。 | 2後 | 2 | | ○ | △ | ○ | | | ○ | |
| 37 | | | ○ | アドバンスネイルⅠ | ジェルネイル技能検定初級・中級の技術を身につける。カウンセリングを含めサロンワークを実践的に学ぶ。 | 2前 | 2 | | ○ | △ | ○ | | | ○ | ○ |
| 38 | | | ○ | アドバンスネイルⅡ | ジェルネイル技能検定上級の技術を身につける。カウンセリングを含めサロンワークを実践的に学ぶ。 | 2後 | 2 | | ○ | △ | ○ | | | ○ | ○ |
| 39 | | | ○ | ヘアスタイリング | 撮影・ショーやブライダルなど、洋装・和装のヘアスタイリングができる技術を身に付けることを目的とする。フォトコンテストのヘアアレンジができるようになる。 | 2前 | 1 | | ○ | △ | ○ | | | ○ | ○ |
| 40 | | | ○ | ビューティープランニング | ネイル、ヘアメイクなど学んだ知識・技術を駆使した作品作りを演習する。テーマにあわせたトータルコーディネートができるように応用力を身に付けることを目的とする。 | 2後 | 3 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 41 | | | ○ | 生理解剖学 | 人体のしくみ、構造と働きの基本を学び、エステティック施術を正しく行うための知識を身につける。エステティックの資格取得に必要な知識もあわせて学ぶ。 | 2前 | 1 | ○ | | | ○ | | ○ | ○ | |
| 42 | | | ○ | 応用美容理論 | 人間の身体の知識や皮膚の構造、化粧品成分や栄養学など、美容業界で欠かせない知識を身に付け、エステティシャンセンター試験合格レベルの知識の定着を図る。 | 2後 | 1 | ○ | | | ○ | | ○ | ○ | |
| 43 | | | ○ | エステティシャンセンター試験対策 | エステティシャンセンター試験合格レベルの知識の定着を図る | 2後 | 1 | △ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | |
| 44 | | | ○ | 着付け実習 | きものの知識と実技を身に付ける | 2通 | 2 | | ○ | | ○ | | ○ | ○ | |
| 45 | | | ○ | アロマテラピー応用 | リラクセーションやスキンケアで活用されるアロマの安全な楽しみ方、活用法、歴史、文化など広く学ぶ。アロマテラピーの基礎知識を活用し、アロマテラピー検定１級レベルの知識の定着を図る。 | 2前 | 1 | △ | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 46 | | | ○ | パーソナルカラー応用Ⅰ | 色の持つ力を上手く利用して、その人の魅力を充分に引き出す知識とセンスを身に付けることを目的とする。さらに、パーソナルカラー２級レベルの知識の定着を図る。 | 2前 | 1 | ○ | △ | | ○ | | ○ | | |
| 47 | | | ○ | パーソナルカラー応用Ⅱ | パーソナルカラーの基礎知識を活用しパーソナルカラー２級レベルの知識の定着を図るとともに、パーソナルカラー診断ができるようになる。 | 2後 | 1 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 48 | | | ○ | テクニカルメイク | カバーメイクや特殊メイクを始めとし、傷メイクやイメージメイクまで、上級のメイクアップの知識と技術の習得する。 | 2後 | 1 | | △ | ○ | ○ | | | ○ | |
| 49 | | | ○ | テクニカルネイル | サロンワーク用イクステンションの習得を目的とし、スカルプチュアやジェルクリアスカルプチュアなどの技術を身に付けることを目的とする。カウンセリングを含めサロンワークを実践的に学ぶ。 | 2後 | 1 | | △ | ○ | ○ | | | ○ | |
| 50 | | | ○ | トータルエステティック | より高度なエステティック技術の習得を目指す。肌の状況に合わせた化粧品選択、施術選択ができるようになるために、カウンセリングも含め、実践的にトレーニングを行う。 | 2後 | 1 | | △ | ○ | ○ | | | ○ | |
| 合計 | | | | | 50 科目 | | | | | | | | | 73 単位（単位時間） | |

| 卒業要件及び履修方法 | | 授業期間等 | |
|---|---|---|---|
| 卒業要件： | ■学業成績学業成績の判定は、秀、優、良、可、不可の５種をもってこれを表し、秀は９０点以上、優は８０点以上、良は７０点以上、可は６０点以上、不可は６０点未満とする。授業科目の成績は、前項の５種で表すと共に、それぞれの評価に対して、別に定める基準によりGP（Grade-Point）を与える。<br>■単位の授与授業科目を履修し、各科目の成績を判定の上、秀、優、良、可を取得した学生には所定の単位を与える。<br>■卒業の認定修業年限以上在学して、所定の授業時数以上履修し、かつ下記に定めるところにより授業科目および単位数を修得し、卒業審査に合格した者について卒業を認定する。 | １学年の学期区分 | 2 期 |
| 履修方法： | 学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内に行う効果測定、課題の提出等により評価する。なお、本校が必要と認めた場合に限り、追試験又は再試験を行う。 | １学期の授業期間 | 22 週 |

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。